

# 食と農を通じて地域をつなぐ

## — J A 新みやぎ小牛田支店の地域協働活動 —

主任研究員 福田 いずみ

### 1. はじめに

コミュニティの希薄化が招く様々な生活問題のひとつに孤立がある。近年は貧困家庭の子どもや独居の高齢者に見られる社会的孤立の解消に向けて、子ども食堂をはじめとした地域の交流拠点や居場所づくりなどの必要性が注目されている。

J Aにおいても各地で地域のつながりづくりに取り組んでおり、子ども食堂への食材提供などの居場所づくりへの支援や、女性部や助け合い組織が、高齢者支援をはじめとした様々な活動を行っている。

本稿では、地域と連携してJ Aならではの「食」と「農」を通じた地域のつながりづくりに取り組んでいる、宮城県美里町のJ A新みやぎ小牛田支店の地域協働活動に焦点を当て、同支店が令和5年に実施した活動を紹介するとともに、その意義と可能性について報告する。

### 2. J A 新みやぎ 小牛田支店の活動

J A新みやぎ小牛田支店では、「あなたの笑顔のためにみんなで 地域のGENKIのためにあなたも」をテーマに「食」と「農」、「SDGs」への理解を深める活動を行っている。実行組合、女性部、青年部、職員等で構成する支店運営委員会を中心に、社会福祉協議会や子ども食堂運営団体、町内の小学校や商工会などの様々な組織と連携し、農家の後継者問題やコロナ禍における貧困家庭の増加といった地域の課題を共有し、フードロスの削減や地産地消で地元農業の活性化を図ることを目標に地域協働活動に取り組んできた。

今回は今年度実施した活動の中から、「農業GENKI体験塾」、「みんなのGENKI食堂」、「フードドライブ」の取組みについて紹介する。

#### (1) 農業GENKI体験塾

今年度で4年目となる「農業GENKI体験塾」は、年5回の農業体験プログラムである(図表)。若いファミリー層を対象に参加者を募り、募集チラシは地域の小学校(5校)の協力を得て配布した。親子での参加を原則とし、家族で参加してもらうことによる食育の効果を期待している。当初は母親と子どもで

(図表) 令和5年度 農業GENKI体験塾 開催内容

開催日	体験内容
第1回 (5/13)	・枝豆、とうもろこしの播種 ・さつまいも、かぼちゃの苗定植 ・里芋種芋植え
第2回 (6/13)	・地場産小麦「夏黄金」と地場産米粉を使ってフライパンで焼けるパン作りに挑戦
第3回 (8/5)	・とうもろこし、ニンジン、枝豆、かぼちゃの収穫 ・アグリクイズ大会
第4回 (9/9)	・北浦梨の収穫体験 ・大根、白菜の播種 ・焼肉のたれ作り
第5回 (11/11)	・白菜、さつまいも、里芋の収穫 ・新米のおにぎり作り&バーベキューランチ ・アグリクイズ大会 ・さつまいもの重量ナンバーワンコンテスト

(出所) J A新みやぎ小牛田支店提供資料より筆者作成

※ この活動にはJ A共済の「地域・農業活性化積立金」が活用されている。

参加する家族が多くを占めていたが、チラシのイメージ写真に父親が楽しそうに参加している写真を載せたところ、年々両親そろっての参加が増えてきた。家族単位での申し込みのため、赤ちゃん連れで参加する家族もいる。また、この地域に転居してきたばかりの新しい住民の参加もみられ、地域の子育て世代が交流する場にもなっている。

(図表) に示すとおり、今年度はJAの営農職員の指導のもと、様々な野菜づくりに挑戦した。そして、今回は農業法人の農場での出張体験を実現し、ベテラン農家による指導のもとで、とうもろこしやニンジンの収穫体験などを行った。その他にも、直売所での生で食べられるとうもろこし(おおももの)の試食会や、お土産にメーカー向けに栽培しているポテトチップス専用品種のじゃがいも(オホーツク)を提供した際に、いずれも小牛田で栽培されている農作物であることを紹介した。また、地場産の小麦粉(夏黄金)や地場産の米粉を使ったパン作り等を行い、楽しみながら地元農産物への理解を深めた。

プログラムの中で毎年人気なのが、小牛田特産の「北浦梨」の収穫体験である。近年は生産者の高齢化や後継者不足で生産量が減少傾向にあるが、「農業GENKI体験塾」での交流を通じて少しでも生産者の励みになればという願いも込められている。

「農業GENKI体験塾」では、「食べる」ことに重点を置いた活動にも取り組んでいる。炊きたてのご飯を自らの手で握った「おにぎり」の美味しさを実感するとともに、自分たちが育てた野菜を手作りの焼き肉のたれで味わうバーベキューランチは最高の贅沢と好評である。

食べ切れないほど収穫した農作物は、持ち帰り用を除いた余剰分についてデイサービスセンターや高齢者世帯、子ども食堂などに寄



第1回「農業GENKI体験塾」定植の様子  
(JA新みやぎ小牛田支店提供写真)



第4回「農業GENKI体験塾」  
北浦梨収穫体験の様子  
(JA新みやぎ小牛田支店提供写真)

付することを提案し、食材提供を行うことで「農業GENKI体験塾」の活動を地域の支えあいにつなげている。

## (2) みんなのGENKI食堂

「みんなのGENKI食堂」は、子ども食堂のような貧困救済も目的の1つであるが、核家族化やライフスタイルの多様化によって一人で食事をする「孤食」が増える中、健康的な生活を送るためには、栄養を摂取するだけでなく誰かと一緒に食事を楽しむ「共食」の機会も大切であると考え、今年の「みんなのGENKI食堂」では、「美味しく、楽しく、元気になる」健康増進活動としての定着化を

目指し、2月<sup>1</sup>と10月の地域イベントの中で開催することとした。

2月の「家活フェスタ」では、女性部やサークル活動の手作り作品展とともにおうち時間の充実をテーマとした多彩な文化講座や、「農業GENKI体験塾の活動写真展」、「おさがり譲渡会」、仙台牛が当たる「お楽しみ抽選会」などの多世代が楽しめるイベントを企画し、町内の小学校全児童と組合員全戸にチラシを配布して来場者を募った。「家活フェスタ」で実施した「みんなのGENKI食堂」では、職員が作った地場産野菜たっぷりカレーが来場者100名にふるまわれ、コロナ以降、久しぶりににぎやかなイベントとなった。

10月には、おんべこ産業まつり<sup>2</sup>において「みんなのGENKI食堂」を実施した。おんべこ産業まつりは、町内の農畜産物をはじめ、商工業の魅力発信や消費拡大を目的としたイベントである。

J Aのブースでは、紅白餅まき大会や手製のふるまい餅、新米の品種当てクイズなどが行われた。「みんなのGENKI食堂」では、新米3種の食べ比べと地場産たっぷりのとん汁セット150食分を提供し、チャリティ募金への協力を呼び掛けた。その他に職員の家の不用品を持ち寄ってフリマ募金を実施。ふるまい餅や「みんなのGENKI食堂」で集まった募金と合わせて美里町社会福祉協議会のフードバンク事業に寄付を行った。

### (3) フードドライブ

小牛田支店では、女性部とのタイアップで「フードドライブ」を実施している。「『もったいない』を『ありがとう』に」を合言葉に、家庭で食べきれない食品を持ち寄り、フードバンクを運営している美里町社会福祉協議会

に提供している。支店内にフードドライブ専用のボックスを設置し、組合員等に家庭で眠っている食品（常温品）の提供を呼び掛けている。

また、美里町社会福祉協議会の「家計おたすけ事業」への協力も行っている。同事業は、美里町内在住の公的な支援が届きにくい、生活保護世帯を除く経済的に困窮している家庭を対象に食品や日用品を提供することを目的とし、年に3回（3月、7月、12月）実施している。小牛田支店には、チラシを作成するなどして組合員等に米や規格外野菜などの農産物の寄付を呼びかけると、提供日に合わせて毎回たくさんの米や野菜が持ち込まれる。



小牛田支店のフードドライブコーナー



美里町社会福祉協議会に寄付野菜のお届け（7月）

1 J A新みやぎの事業年度は1月～12月

2 美里町、遠田商工会との連携開催。町の広報誌にチラシを入れ全町民にPRした。

直近の12月4日には、軽トラック2台分の米や白菜などの野菜が提供された。

### 3. 地域協働活動の意義と可能性

これまで述べてきた小牛田支店の活動を地域福祉の視点で見ると、「食」と「農」を通して地域をつなぐ様々な可能性を秘めている。「農業GENKI体験塾」の活動は、農業体験を通じて、地域の子育て世代が交流する場を提供しているという意味において子育て支援の機能を有しているといえよう。また、「農業GENKI体験塾」では、食育体験や地域農業の振興にとどまらず、収穫した農作物の寄付を通して参加者が地域の課題に目を向ける機会となっている。この活動で収穫した農作物をデイサービスセンターや高齢者世帯に提供することを参加者に提案する理由のひとつには、JA新みやぎの介護福祉事業を通して知り得た高齢者の厳しい生活実態がある。家事援助に入ったヘルパーの「食材が無くて食事が作れなかった」という報告が、高齢者世帯への食材提供活動につながり、JAならではの地域の支え合いを生んでいる。

「みんなのGENKI食堂」や「フードドライブ」の活動では、地域の社会福祉協議会と連携して地域福祉の一翼を担っている。特に「家計おたすけ事業」への協力においては、フードバンクが通常は取り扱わない野菜の提供を行っているという点が、地域に根差したJAならではのかわり方といえる。美里町社会福祉協議会の担当者によると、カレーを提供した際に「お米や野菜が無いのでルーだけもらってもカレーを作ることができない」という声が寄せられたことがあり、JAから提供される野菜やお米にとっても助けられているという。

JAの強みとも言える野菜の提供は、JAに期待される支援であり、小牛田支店の活動

を通してこれまでJAと縁の無かった地域住民にJAを身近に感じてもらうことや、地域農業への理解につながっていきだろう。

### 4. おわりに

本稿で報告したJA新みやぎ小牛田支店の活動は、宮城県の支店協働活動コンクールで3年連続グランプリを受賞している取組みである。

担当者だけで頑張るのではなく、女性部や青年部、助け合い組織、実行組合などに協力を呼びかけ、支店長指揮のもと支店が一丸となって部門間の垣根を超えた役割分担を行って活動している。

小牛田支店の佐々木由美支店長は、「これからはJAが持っている「食」と「農」の力で地域の元気をつくり、農家だけでなく誰もが頼れる地域に無くてはならない拠り所となるよう活動していきたい」と語る。

この活動が、これからどのようにして地域のつながりを作っていくのか期待するとともに、今後の動向に注目していきたい。

#### 【謝辞】

本稿執筆に際し、JA新みやぎ小牛田支店の佐々木由美支店長には、お忙しい中、資料提供の他、ヒアリング等にご対応いただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

#### 【参考文献】

- ・ JA新みやぎ提供資料  
「令和5年度活動報告書」  
「JAの未来を築くSDGsな地域の「わ」作戦」
- ・ 美里町社会福祉協議会『みさと社協だより』  
2023年12月